

国語国文学会だより



No. 25

2001. 8

日本文学科卒業生の会

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成十三年度春の総会・研究発表会を五月二十四日(木)、八〇年館八五一教室で開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶 倉田宏子先生

(2) 奨学金授与

久松潜一記念奨学金

四年次 金子貴美子氏
四年次 鈴木貴子氏

日本女子大学日本文学科賞奨励賞

四年次 ベ・ジンヨン氏

院博士課程前期二年次 壬生里巳氏

上村悦子賞

院博士課程前期二年次 森田真由氏

院博士課程後期二年次 橋本のぞみ氏

(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

(学生の方へ) 卒業生の会

(4) 平成十二年度活動・決算報告

(5) 平成十三年度活動計画案・予算案

(6) 自主ゼミ発足

◆第二部 活動報告と研究発表

交換留学生紹介 (三名)

学部三年 チー・クムシン(ウエルズリー・カレッジ)

チヨ・ヨンジュ(ウエルズリー・カレッジ)

学部四年 キム・ソンギョン(梨花女子大学)

・報告

万葉集巻一第十番歌をよむ

「草結び」にこめた祈り

上代自主ゼミ 渡辺陽子氏

・研究発表

日本人の自然観と梅の歌からの考察

新50 柴山雅子氏

成親龍神譚の成立をめぐる

中世文学・石井倫子ゼミ 新51 相原さつき氏

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成十三年十二月十五日(土)

▼公開講演会

題目未定

高野悦子氏

☆講師略歴

高野悦子(たかの・えつこ)

一九二九年生まれ。日本女子大社会福祉学科卒業。バリ高等映画学院監督科卒業。一九六八年岩波ホール総支配人に就任。一九七四年よりエキブ・ド・シネマを主宰。世界の埋もれた名画の上映に力を注ぎ、菊池寛賞、川喜多賞、フランス国家功労賞など多くの賞を受ける。一九九七年より東京国立近代美術館フィルムセンター名誉館長として活躍。

▼講演

「吉田健一 小説と随筆の間」(予定)

本学助教授 高橋智子先生

▼懇親会

講演会終了後、桜楓会館にて(予定)

会費 三千円(学生千五百円)

*研究発表会

十五日午前

発表者募集

詳細は四面参照

平成十二年度卒業生の会活動報告

(1) 総務

- ・ 回生委員会・常任委員会の召集
- ・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十五日

(2) 企画

- ・ 自主ゼミの活動
- ・ 文学散歩の実施 十月二十八日
- ・ 秋季大会の開催 十二月二日

(3) 会計

- ・ 研究発表会・総会・講演会・懇親会
- ・ 会費納入の確認
- ・ 収支・運営・備品の整備など

(4) 編集

- ・ 「国語国文学会だより」の発行 二十三号(八月)、二十四号(三月)
- ・ はがき通信 五月(春の総会案内)
- ・ はがき通信 十一月(秋季大会出欠、住所確認、ひとこと)
- ・ 会員名簿の改訂・発行

平成十三年度卒業生の会活動計画案

(1) 総務

- ・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十四日

(2) 企画

- ・ 自主ゼミの設立 五月二十五日
- ・ 文学散歩の実施
- ・ 秋季大会の開催

(3) 会計

- ・ 研究発表大会・総会・講演会・懇親会
- ・ 会費納入への協力依頼

- ・ 活動充実のための備品の整備・購入
- (4) 編集
- ・ 「国語国文学会だより」の発行

- ・ はがき通信

平成十三年度常任委員

- 総務 児玉久美子(旧46) 高野晴代(院14) 藤木直美(院31) 福原房枝(新28) 土橋ユリヨ(新31)
- 企画 立川和子(新1) 新妻佳珠子(新3) 菅野富邇子(新11) 黒川晴美(新33) 平山静(新34)
- 会計 津田英子(新6) 齊藤令子(新6) 倉田智子(新31)

- 編集 高橋順子(院18) 中田和子(院27) 斎藤規知

(院35)

本年度の会計監査は猶場美保さん(新11)、保志美也子さん(新12)です。

平成十三年度研究サークル

* 平安文学談話会(古筆を読む)
金曜日午後四時半(年十回) 日本文学科学研究室

* 皇女研究会(皇女総覧平安朝篇の作成)
不定期 土曜日午前十時半 大学図書館共同研究室

* 古代中世文化論ないし芸術論(古今著聞集)
毎月第四木曜日午後一時半〜三時半

* 柳澤理恵子(〇四五(八五)一六五二五)
桜楓会館新館にて

※今年度より場所が変わりました。

山田佐和子(〇三三九七二)四八四三

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成12年度決算報告(平成13.5.24日現在)		
【収入の部】 (円)		
項目	予算	決算
前年度繰越金	818,232	818,232
会費	695,136	782,036
寄付子	0	36,000
利子	0	761
計	1,513,368	1,637,029
【支出の部】		
通信費	350,000	415,335
文具費	20,000	267
コピー代	15,000	3,242
会報印刷費	140,000	92,200
名簿作成費	300,000	286,650
委員会活動費		
・ 委員会費	20,000	14,263
・ 交通費	40,000	34,000
・ 行事費	10,000	0
ゼミ費	30,000	30,000
講演会費(講演料)	60,000	152,504
大会諸経費	30,000	
設立準備金	142,570	142,570
慶弔費	10,000	0
パソコン関係諸経費	20,000	19,430
予備費	325,798	0
計	1,513,368	1,190,461
次年度繰越金		¥ 446,568
上記の通り決算報告致します。		
会計 津田英子(印) 斎藤令子(印)		
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。		
監査 猶場美保(印) 保志美也子(印)		

▼文学散歩 芭蕉ゆかりの地を徒歩と船で

俳句作家・綾野道江氏のご案内で、江戸の面影を残す下町散策を企画しました。

まず「奥の細道」ゆかりの芭蕉庵周辺を歩いた後、両国から遊覧船で浜町・越中島・お台場と隅田川を下って、葛西から荒川を遡り、隅田水門を経て再び隅田川へ。千住大橋・両国へと、過去と未来の東京を味わう予定です。

日時 十月二十日(土) 午前十時〜午後五時
集合場所 都営地下鉄新宿線森下駅A1出口改札口
費用 昼食・船代他約四千元
申し込み・連絡先

新妻佳珠子氏(新3)〇四二(四四)四六九一

十月十三日〜十八日 夜間にお電話を

◆お知らせ

〇百年館が完成し、日本文学研究室が八階に移転しました。ご連絡は五九八一・三三二二(直通)、卒業生の会の部屋は八二四です。

〇旧制42回松尾芳枝様が逝去され、ご遺族の丸山美代子氏より会に二万円のご寄付をいただきました。〇『国文目白』第四十号ができました。ご希望の方は葉書で左記までお申し込みください。

〒一一二八六八一 文京区目白台一八一

日本女子大学日本文学研究室『国文目白』係
代金は、冊子到着後に払い込んでください。

(送料別 四〇号 千八百円)

国文目白第四〇号

麻原美子 浅野三平 両教授退任記念号目次より
麻原美子名誉教授略歴ならびに著述目録

『とはずがたり』読みの試み

..... 麻原美子

『水鏡』諸伝本の標目について

..... 多田圭子

弘法大師伝の形成について

—— 奇跡譚を中心に——

..... 中井敦子

説話による『タマ』概念の展開と変容..... 大久保七重

化鳥退治説話についての一考察

——『平家物語』『太平記』と

中国説話との関連をめぐって..... 須藤真紀

雅忠女と二条..... 祖父江有里子

—— 乳母子としての痕跡——

長門本平家物語伝本と伊藤家本..... 中村祐子

説話『月日の鼠』の出版及びその引用作品をめぐ

る一考察..... 伊東由紀子

『平家物語』住吉明神関係記事についての考察

—— 長門本を中心にして——..... 柳澤咲子

浅野三平名誉教授略歴ならびに著述目録

小泉八雲『骨董』と『新著閑集』..... 浅野三平

上田秋成『去年の枝折』考..... 東 聖子

—— 俳諧的架空紀行の系譜と三重構造の心——

坂光淳伝記考..... 阿部満美子

懸居門歌人 鵜殿余野子..... 齋藤視知

小林一茶における「春」考..... 中島祐子

大田南畝の漢詩..... 壬生里巳

『恋娘昔八丈』の諸本..... 福田祐子

『伊曾保物語』論..... 田嶋祥子

日本女子大学国語国文学会卒業生の会
平成13年度予算案 (平成13.5.24)

【収入の部】

前年度繰越金	446,568
会費	750,000
計	1,196,568

【支出の部】

通信費	350,000
文具費	10,000
コピー代	20,000
会報印刷費	140,000
名簿作成費	100,000
委員会活動費	
・委員会費	20,000
・交通費	40,000
・行事費	10,000
ゼミ費	30,000
講演会費(講演料)	60,000
大会諸経費	40,000
慶弔費	10,000
パソコン関係諸経費	80,000
予備費	286,568
計	1,196,568

—— 仮名草子としての意味——

浮世草子の色彩..... 岡部千穂

『本朝二十不孝』と『二十四孝』に関する一考察

..... 陳 淑玲

『山東京山書簡集』小考..... 津田真弓

——『北越雪譜』出版をめぐって——

円地文子の上田秋成『二世の縁』受容

——『二世の縁 拾遺』を軸に——..... 田中 愛

統合される「よみ(訓み・読み)」

—— 宗祇『萬葉抄』の萬葉集訓読について

《中世と近世の間》..... 小川靖彦

中川の宿 ——『帚木』巻読解..... 後藤祥子

「慢じたる者名人になるなり」..... 石井倫子

—— 禅鳳と正広の交流をめぐって——

《良寛》を文学史につなぐ(続)..... 鈴木健一

吉田健一の小説(三)..... 高橋智子

——『道端』と『東北本線』における《町》——

研究室だより

○二〇〇一年四月一日付で、後藤祥子先生が第十一代学長に就任されました。本学・本学科は、本年、創立百周年を迎え、改めて女子大学の真価が問われている今日、後藤新学長の広量なる識見、透徹した教育的信念、卓越した企画力と行動力に、熱く大きな期待が寄せられています。

なお、後藤先生は、中古文学の担当者として本年も教壇に立つていらつしやいます。

○本年度より、日本文学科では従前の奨学金に加えて、日本女子大学日本文学科賞という新しい奨学金を創設致しました。この賞は、名誉教授浅野三平先生のご寄付を主たる資金に新設したもので、優秀な卒業論文を提出した学生一名に授与される学術賞（卒業時に授与）と、学業優秀かつ創造的な学生生活を送った学部生と大学院生各一名に授与される奨励賞（国語国文学会春季大会において授与）からなっています。五月二十四日（木）の春季大会には、浅野先生のご臨席も賜わり、奨励賞の第一回授与式を執り行いました。

○本学創立百周年を記念した百年館が完成し、日本文学科は、七月初旬、同館八階に移転を致しました。国語国文学会室も移転致しましたので、どうぞお立ち寄り下さい。

また、百年館の四階には、生涯学習総合センター（LCC）も開設し、九月から情報・講座の発信を開始致します。同センターの活動は、女性情報部門、国際交流部門、地域・社会活動支援部門、マルチメディア教育部門の四部門が柱となっております。卒業生の皆さまの生涯学習の場として活用ください。

ちなみに、地域・社会活動支援部門長には、源五郎先生が就任されました。

○夏休みに入った八月四日（土）午後、本学科卒業生による教育活動報告と対談の会を企画し、約百名の参会を得ました。貝田桃子さん（新制四十回卒。秋田県能代北高校教諭）の「今学校で、生徒の心と向き合う」と題する体験談は、教育の現場での奮闘ぶりを率直に語られ、教員志望の学生たちに勇気と励ましを与えられました。真山美保さん（旧制四十一回卒。劇団新作座主宰・戯曲家・演出家）と武田典子さん（新制二十七回卒。歌舞伎専門誌『ザ・かぶき』を独力で発行）の対談「私と日本女子大学と演劇活動」は、演劇一筋に打ち込んでこられた先輩に後輩がインタビューするかたちで進められ、戦時下の日本女子大学の思い出や真山さんの父真山青果のお話などとりわけ興味深く、新作座団員二十名による合唱なども披露されて参会者を大いに魅了し、内容の濃い充実した会となりました。

○昨年度、ロンドン大学を中心とした海外研修に出られていた清水康行先生がご帰任になりました。

○今年度は、藤原浩史先生が国立国語研究所を中心とした国内研修に出られています。

○ほかの先生方は、昨年と変わられません。

小川靖彦先生（上代文学）

後藤祥子先生（中古文学）

石井倫子先生（中世文学）

鈴木健一先生（近世文学）

源 五郎先生（近代文学）

高橋智子先生（近代文学）

清水康行先生（日本語学）

石田敏子先生（日本語教育学）

谷中信一先生（中国思想史）

田辺和子先生（外国人留学生特別科目）

田中 功先生（図書館情報学）

倉田宏子（近代文学）の十二名です。

○助手さんは、白石美鈴さん、溝部優実子さん、伊藤藤江美さん、非常勤の稲員直子さんで、昨年と変わりません。

○国語国文学会の担当は、清水先生、源先生、伊藤さんです。（日本文学科長 倉田記）

◆会計より

今回の「国語国文学会だより」には会費の振込用紙を同封いたしました。事務手続きの都合上、振り込みはできるだけ年内（十二月末まで）にお願いいたします。

◆研究発表会 発表者募集

- ・ 日 時 平成十三年十二月十五日（土）
- ・ 発表時間 三十分、質疑十分
- ・ 応募資格 本学国語国文学会会員
- ・ 応募方法 四百字以内に発表要旨をまとめ、論題とともに申し込む。
- ・ 応募先 日本文学科研究室
- ・ 締切り 平成十三年九月二十八日（土）

国語国文学会だより

- ・ 発行日 二〇〇一年八月三十一日
- ・ 発行者 日本女子大学国語国文学会卒業生の会
- 〒一一二・八六八一 東京都文京区目白台二・八・一
- 日本女子大学日本文学科内